

令和 4 年度指定

CS を軸とした小中一貫教育における PTA 活動

光市立室積小中学校 PTA

1. 学校・地域の概要

光市は山口県の東南部、周南工業地帯の東部に位置し、瀬戸内海国立公園を一部に含む自然景観の優れた人口約 5 万人の都市です。

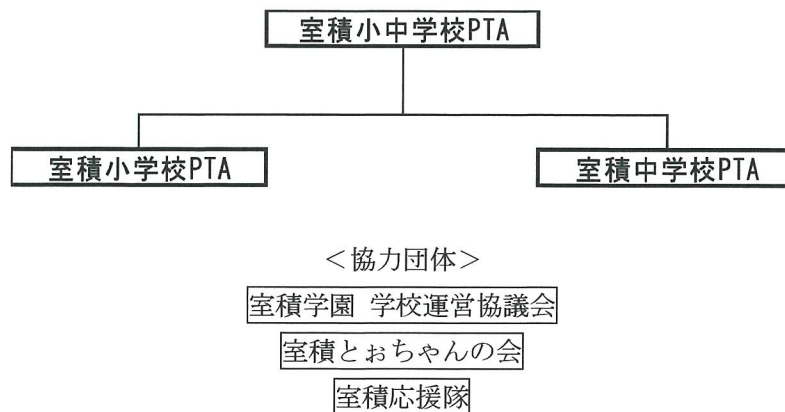
市域北西部を島田川が貫流して周防灘に注ぎ、中心地域は河口デルタを形成して、その両端に西日本屈指の海水浴場で知られる室積・虹ヶ浜の白砂青松の海岸が広がっています。総延長約 8km に及ぶ美しい海岸は「森林浴の森日本 100 選」や「日本の白砂青松 100 線」、「日本の渚・百選」にも選ばれています。



室積の市街は、かつて島であった峨眉山との砂州で形成されています。東側の御手洗湾は波静かな湾で、明治初期までは北前船の風待港として機能し、港町として賑わいました。普賢寺は海の守り神として西日本に広く信仰者を集め、春の大祭には今でも多くの参詣者が訪れています。

1 小 1 中の校区で、室積中学校は平成 25 年から、室積小学校は平成 26 年からコミュニティスクールとなり、令和 2 年より小中一貫教育「室積学園」としてスタートいたしました。両校は直線距離で約 2km、室積学園の発足に合わせ、PTA 組織についても統合し、現在では室積小中学校 PTA として活動を進めています。地区住民の学校教育への関心は高く、学校行事や地域の諸活動に対しても協力的で熱心です。

2. PTA 組織について

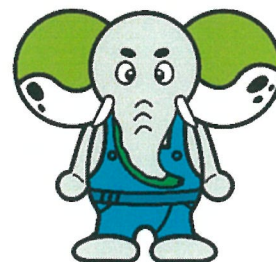


小学校、中学校それぞれの PTA 組織を上部でつないだ組織としています。小中学校 PTA の会長は中学校会長、副会長は小学校会長とし、理事に両校の執行部を置いて横のつながりを意識した組織作りとしました。各 PTA に 3 つの委員会があり、それぞれがコミュニティスクールの 3 つの部会と連動しています。

学校運営協議会と室積とおちゃんの会にて PTA 活動のサポートや活動についての助言、室積応援隊は、地域住民で構成する学校や PTA 活動のサポート集団であり、コミュニティスクールを軸として PTA 活動を推進する体制としています。

4. 研究テーマについて

昨年度、室積学園（室積小学校、中学校のコミュニティスクールにおける呼称）では、生徒、児童が協同して室積地域をもっとよくする取り組みについて議論（中学校生徒会に小学生も参加）。結論として、室積地域のキャラクターを作るという活動を推進。生徒、児童からキャラクター原案募集～キャラクター案を決定。名前を地域に愛されるようにと地域から公募。「むろぞう」と決まりました。



今年度、「むろぞうの更なる地域浸透」と小中 PTA の更なる一体化を目的に「コミュニティスクールを軸とした小中一貫教育における PTA 活動」を研究テーマとしました。また、来年度は、室積小学校が創立 150 周年を迎える年であり、関連活動も推進することとしました。

4. 活動内容

(1) 室小キラリ☆シ大作战

学校運営協議会で学校内点検を行い、子どもたちの学習環境の改善について、提案いただきます。昨年度までは、PTAにて改善活動を実施していましたが、今年度から参加者をPTA全会員から募集し、更に学校(教職員)、地域、中学生からも募集を募り作業を行いました。パート分けをし、①遊具のペンキ塗り、②Pタイル貼替、③椅子へのテニスボール付け、④理科室教材入れ更新、⑤カーテン洗濯を実施。今回助成金にて、④理科室教材入れ更新に一部使用させていただきました。



①遊具のペンキ塗り：中学生が参加



④理科室教材入れ更新：古くなった木製の教材入れをプラスチック製に更新。

(2) 室積小中 PTA 役員の一体感醸成

イベント開催時に、小学校役員は「室小PTA」と書いたジャンバーを着用していましたが、今後小中一体となった活動を推進していく中で、新たなポロシャツを作成。地域キャラクターである「むろぞう」を胸にワンポイントで、左腕にコミュニティスクールのマークを入れました。小中が共同使用とするため、同一デザインにて準備しました。運動会等のイベント時に小中両方で着用し、内外の方々に同じ活動をしているアピールにもつながりました。

今後の活動でも活用していく予定です。
(助成金の一部をマークの型代に使用)



(3) 門松作り

室積コミュニティセンターの門松作りを地域の方々に生徒、児童が教えてもらいながら作成。教えていただいた内容を覚え、同じ日に小学校、中学校の玄関に、生徒、児童が門松を作成。伝統的な文化を自ら体験する機会を得て活動につなげています。



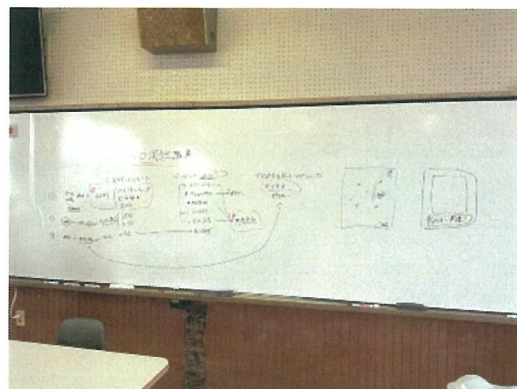
コミュニティセンターで作成後、児童は小学校、生徒は中学校で作成。

(4) 室積小学校創立 150 周年記念事業 準備委員会

令和5年度に創立150周年を迎えるため、記念事業を計画。事業の内容は、児童が発案したものをPTA、地域で形にしていくスタイルとしました。準備委員会に児童を加え、創立150周年をどんなものにしたいかを児童自らに検討させてみました。今年度の検討メンバーは5,6年生のため、6年生は来年中学生となり、この活動を進めていく予定です。児童自身が企画者となり、どんなことを準備するのか？何に気を遣うのか？を地域やPTAの力を借りながら検討しています。



全体会議の様子。地域、PTA、教員も参加。



児童が企画した事業内容

6. 成果と課題

今年度はコミュニティスクールを軸とした PTA 活動をテーマに活動を推進しました。PTA 活動や学校活動のあらゆる場面で地域や保護者に活動の参加を依頼しました。合わせて生徒、児童を参画させることで、地域、保護者には「子どもたちのために何かしてやろう」という意識を芽生えさせ、活動している地域、保護者を生徒、児童が目当たりにするすることで、「自分たちは地域に育ててもらっている」という意識も醸成することができたと実感しています。PTA 活動の根幹は、「子どものために何ができるか」ということであり、PTA の OB である地域の方にも、その気持ちを思い出していただくことがポイントであったと考えます。大人と子どもがお互いの姿を見合いながら、一つの方向に向かって活動できたことが最も大きな成果であったと自負しています。

PTA 活動は、できる方法を考えること、やるかやらないかを悩むのであれば、まずやることが大事だと思います。できるかできないかは組織の能力ですが、やるかやらないかは組織のやる気一つです。これからも、学校、地域と協力しながら、全力で PTA 活動に邁進していきます。

以上